論題について

**論　 　題：「台湾は公立の中学および高校をすべて男女共学にするべきである」**

**（中文：「台灣單一性別公立國中及公立高中職均應改為男女合校」）**

　　　　　　　※ここでの「高校」とは「高中（高級中學）」と「高職（高級

職業学校）」を指す。

論題背景：　現在、台湾の小学校はすべて共学となっているが、男女別の中学は9校、うち公立中学は1校（嘉義縣朴子國中）のみとなっている。また、男女別の高校は24校で、うち公立は11校である。

それらのほとんどが女子校で、男子校は台北市の建國高中と成功

高中が残るのみである。

　　　　　　近年、男女平等の観点や少子化による生徒募集への影響から、公立私立ともに共学化が進んでおり、ここ10年ほどで公私立合わせて9校が共学となっている。そんな中にあって、歴史ある有名進学校である男子校、女子校はいわば「ブランド化」しており、過去、たびたびあった共学化の提言は、それを上回る反対意見に押され続けている。

　　　　　　なお、大学（大專）はすべて共学となっている。